

静嘉堂文庫藏明鈔本『文苑英華』所載「新樂府」(凡二十一首)影印

神鷹徳治

『文苑英華』一千卷本は、北宋の九八七年に、太宗の勅命を受けて完成されたもので、現在、刊本としては、南宋嘉泰刊本、明隆慶刊本の二種が存在している。前者の南宋刊本の現存本は約一〇〇巻ぐらいであるが、他の巻を補足するものとしては、宋刊本を底本とした明の鈔本が残されている。従って、この明鈔本を利用することによって南宋刊本の本文が復元できるわけである。加之、『文苑英華』は北宋初期に編集されたので、その直接の材料は、唐鈔本乃至これに近い型態のテキストであつたと推測される。即ち、中国側資料としては、日本伝存の所謂旧鈔本資料群に極めて近い本文を持つ数少ないテキストであることが既に諸氏により考察されている。今、明鈔本の一本として知られている、静嘉堂文庫所蔵本『文苑英華』(卷三三三―三三八)所収の「新樂府」(凡二十一首)を影印する次第である。

書誌

四周単辺 縦十九・〇×横十四・〇(糲)

十一行二十二字 按、宋版は十三行二十二字、明版は十一行二十二字であるので、本書の直接の底本は、明版に倣った明鈔本か。

※版心、框郭、界線いずれも印刷されているが、本文は書写。版心には、書名、巻数、丁数は記されていない。又、乱丁「両朱閣」(〇一四八)も存するので、便宜性を考慮して、花房英樹博士の作品番号に準拠して、左記のように作品を配列している。

[0125]  
・  
[0130]  
・  
[0132]  
・  
[0133]  
・  
[0134]  
・  
[0135]  
・  
[0140]  
・  
[0141]  
・  
[0145]  
・  
[0146]  
・  
[0147]  
・  
[0148]  
・  
[0149]  
・  
[0150]  
・  
[0151]  
・  
[0152]  
・  
[0158]  
・  
[0165]  
・  
[0167]  
・  
[0172]  
・  
[0173]

#### 参考文献

和田浩平「白氏文集における旧鈔本と刊本の間——総集文苑英華所収の長恨歌本文について——」(『白居易研究講座 第六巻——白氏文集の本文』勉誠社、一九九五)

[0125]

